

〔論説〕人類は東洋と西洋の文明の衝突へと向かっているのか？

ベン・アミー・シロニー（倫理研究所客員教授）

序文

米国の政治学者サミュエル・ハンチントンは1996年、『文明の衝突』という著書を上梓した。当時、ベストセラーとなった同著書の中で、ハンチントンは、2010年前後に、西と東の二つの巨大文明間で戦争が勃発するであろうと予告していた。

ハンチントンの説では、米国、ヨーロッパそしてロシアの超大国で構成された西側陣営が、東洋を率いる中国、日本、そしてイスラム圏に対抗して戦争を仕掛けるという筋書きになっている。文明同士の巨大な衝突で、東西両陣営が消耗してしまう中、インド、東南アジアそして南アメリカなどの南半球の国々が漁夫の利を得るというのだ。東洋と西洋の文明の衝突で、西側が敗北するとの説を唱えたのは、ハンチントンが初めてではない。既に、一九一八年、オズワルド・シュペンGLERが、『西洋の没落』を発表し、西洋文明が衰退していく様を予見していた。一九八七年には、ポール・ケネディが『大国の興亡』の中で、米国、ソ連、西欧列強諸国の退廃を洞察し、中国と日本の台頭を示唆していた。これら一連の類似した予測に共通している問題がある。それはどれも全て間違いだということだ。